

2023年(R5年)



No. 377

WELCOME (題字: 三井 裕森)



社会福祉法人 ひとほ福祉会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムアド) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

稲刈りが進む圃場から稲藁の香りが立ち込める実りの秋を迎えました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

朝夕の空気が気持ちよく過ごしやすいなってきましたが、今年の夏は記録的と言われるだけあり、とにかく暑かったですね。世の中新型コロナウイルスの扱いから類になり、日常を取り戻す戻しつつありますが、この夏は3度目のコロナ禍に見舞われました。私が担当しているくらまぼんも感染した児童やスタッフが見られましたが、皆経過が良好だったことが幸いです。夏休み期間に感染した小学3年生のI君が療養から明け、1週間ぶりに通所をしてきました。施設外での活動のため、移動している車の中でI君が大きく息を吐いて「はあ、幸せだ」とほつり。近くの席にいたスタッフが驚き問いかけると「久しぶりに外に出られて、外の空気が吸えて嬉しい」と口にしていました。そのような言葉を口にしたI君にもびっくりですが、普段何気なくしていること、当たり前だと思っていることは決して当たり前ではないということをI君の言葉に共感を持ちました。「幸せとは作り出すものではなく気付くこと」という言葉をどこかで目にしましたが、我が身に起こること、直面をすることも見方によっては幸不幸どちらの側面も併せ持っている

かもしれません。不満、愚痴を漏らすことは簡単なことですが、ささやかな中にも幸せを気づける、そういった感性を磨き高めたいと思った50歳の夏休み期間でした。(理事長 佐竹 正亮)

あたらしいスタッフがふえました

古屋 光子
所属 食事部
ふってわいた3,000円。使うなら何?
そうですね、友達と食事に行きたいし、スニーカーもほしいです!!

広島国際大学より、実習生が来られました

竹内 (以下、竹): 保育士資格取得のために実習されているということで、多目的棟あんきに宿泊し自炊されてると聞きました。

藤田 (以下、藤): 料理は全部こっちが(白比さんが)。

白比 (以下、白): ちゃんとできた料理じゃないですよ。剪飯っていうか。

藤: 今日の昼用に黒米譲ってもらったんですよ。それを今予約で炊いとんです。(※インタビューは朝9時から)

竹: 休憩時間にあんきに戻って昼食とられてますけど、明日からはあつぷ(甲田町)で実習ということで...

藤: 朝に炊くようにして、おむすびにして持って行きます。

竹: 自炊するのは生活の一部としてというか、節約だったりですか?

藤: はい、お金を使いたくないんで。

日: 就職したら一人暮らしするんで、慣れといた方がいいなって。コンビニだといつでも買えるんで。ちよくちよくやってったら一人暮らしも困らんかなと。

藤: 料理楽しくないよ。

日: (藤田さんは) お菓子作るのが好きなのに、料理は嫌いなんですよ。

藤: お菓子は作ってって途中替い匂いするのが好き。

日: 料理もするでしょ。

日: 慰るのが、母すごいなって。毎日あのメニュー考えて、自分たちが実際作って荷作ろうってアイデアがなくなるんです。実家のありがたみをすごく感じました。

竹: ひとほで実習を始めて1週間くらいだと慰うんですが、印象に残っていることありますか?

藤: (きららと) ブルーベリー狩りした時に口に持ってきてくれた。めっちゃ美味しかった。

竹: どなたでした?

黒瀬さんでした!

藤: 天迫(江里奈)さん? いや、違うか。

日: 今朝俺と一緒に「愛なおじさん」したのが天迫さん。まさかの食いつかれて、めっちゃ笑顔になってもらったのが嬉しいですね。コミュニケーションとか、言語でコミュニケーションがとれないんで非言語でとるんですけど、最初はそれが難しく、でも利用者さんの特徴とか好きなものを交えて会話することで仲良くなれた感じがしたんで、そういうところがいいなと思いました。

竹: 今4年生ということは就職もされていますか?

藤: こっち(白比さん)は決まってる。

竹: 藤田さんはこれから?

藤: 今月某に面接があるんで、そこに決まれば。決まらなかつたらここに(ひとほに)履歴書持ってきます。

日比尊さん 22歳
近所の子たちと接することが多く、子どもが好きという事で保育士を目指す。来年4月より東京の保育園に就職。

ひ

と

は

# 「新谷さんの背中」

ある日、みそ部屋(味噌會をパック詰める部屋)で軽量確言忍をしている私に「あのねえ、中々いいから。困ったら林さんに聞きたい。助けてくれるけん。」と声をかけてくれた新谷さん。その時、要領よくできない自分に落ち込んでいたのが、きつとそれを感じて声をかけてくれたのだと思います。「今の言葉、すごく嬉しかったです。」と伝えると、少し照れたように「まあ、頑張ってる。」とみそ部屋を出る新谷さんの背中が頼もしく感じました。あ、ふへと異動となり、新しい環境の中、周りに助けてもらいながら過ごしています。

(就労センターあつこ 大番有記)

# 「仲間の意義」

ここ数年間で世の中にある大半の職業はAIやロボットに置き換えられると言われていて、私たち福祉業界はどうなっていくのかと心配になります。

ある日、話し言葉を文字にして伝えるという要約筆記の活動を行う人達の会合で、スマホでも話した言葉が瞬時に文字化されるようになってきている中、要約筆記は必要なくなっていくのではないかと議論がありました。その中で聴覚に障害のある方が「私たちは単に情報獲得の手段として要約筆記の支援を利用しているのではなく、そのことから生じる様々な社会の障壁を共に取り除いていく『仲間』としての支援を期待したい」と。

その言葉に私はハッとさせられ、ただ単に利用者さんの支援をするだけでなく、「誰れもが共に暮らせる社会」の実現に向けて共に活動していく『仲間』としての役割を担ってしまえばいけないと強く思いました。(相談支援事業所まや 岡崎 慎治)

# 「やさしい国慶さん」

中村国慶さんと2人毎ハウスで作業をしていた時の事です。この日は悪天候。大雨でしかも雷が光ってはトッカーンと恐ろしい状況。その様々の中、国慶さんが「出入口の方へ行くのでどこの行く？ トイレ？」と尋ねると「うん」と一言。「えー！怖いん早く帰ってきてよ」と仕方なく見送りました(国慶さんはトイレが長いこと有名です)。私はしんぷろ作業続行。ところが「え！もう帰たん。」とビョウリする程早く戻ってくれました。不慣れた新入りの私を心配してくれていたのだと国慶さんのやさしさにほろこります。(ひとは工房 本多 和子)

の

日

マ

どうも(字三上潤子)

平成30年度 ひびきあう改訂版

# 「林さんの流儀」

伊藤千代子

工房事務所で仕事をしている時のことです。ホームから林さんがやってきました。今日は休日です。送迎が出る日ではないはずなのに…とっていると、私を見る目がいつもより厳しい。彼はギターを弾く動作をしながら「クル?!」と強い口調です。

林さんはバス添乗スタッフのマネジメント役を、自主的に担っています。「カカカ(田中さん)」「マルタン(丸岡さん)」と林さんワードで教えながら去っていきます。しかし、その日は違いました。明らかに訴えています。エアギターの恰好は確か「ザ・わたしたち」のことだけど…思い巡らす私をジーと見つめる林さん。「そうか!わかった。」その日は、二十九回続いた「人間ホール」が幕を下ろした翌日でした。「ザ・わたのコンサートがあったよね。」という私に、「うん」と首を振らずジーとみつめたまま、納得いかない顔をしています。そして、激しくエアギターを弾きます。

林さんは、作業所フロアを使って練習に来るザ・わたを、笑顔で迎える自他ともに認めるひとはマネージャーです。そして「人間ホール」でのコンサートを楽しみにしている一人でもあります。そんな彼のただならぬ表情は…「もしかして、ザ・わたはこれからどうなるのか心配してるん？」さよなら、ありがとうの人間ホールの意味を自分なりに解釈した林さんは、これからひとはに来るのかどうか気になった?と想像する私の言葉に「うん」と首を縦に振ります。「林さん、そこまで考えとったんじゃ。大丈夫、これからはザ・わたは練習に来てだし、コンサートもやってくれてよ。」と言うと、すっと力が抜けた顔で去って行きました。さすがマネージャー。

もし林さんが思いをうまく表現できるのなら「人間ホールやめんでもええじゃない。コンサートやろうや」と言っているような気がします。

今日も、スリッパのまま、すたすた歩いている姿があります。今度は何を言わんとしているのでしょうか。少ない言葉と身振りでこちらに考えさせるのが、林さんの流儀ではないでしょうか。

編集後記 「あつこ 長田4区の〇〇です。」 片尾順子

ひとはの人から教人が入れ替わりながらも長田4区で暮らし始めて20年近くになるだろう。再開できずにいる佐々木亭の前である。生きづらさをかかえ、彼らを見守り時には叱ってほしい。お祈り分けた。だいた。ある時彼らの一人が「長田4区の〇〇です」と地域の前の前であいさつをした。その場にいた文尚さんはとても喜んだ。その後多くの人に地域のありがたさを話していた。神田邸に「耐震化の関係でやむなく引越すこと。ご恩は忘れてはならない。」